

記者発表資料

令和3年度 京浜港湾事務所の事業概要について

令和3年度の京浜港湾事務所の主な事業概要は以下のとおりです。

1. 横浜港においては、増加するコンテナ貨物の取扱に適切に対応し、基幹航路の維持・拡大を図るため、コンテナターミナルの再編整備を行います。また、物流関連車両の陸上輸送機能の強化を図るため臨港道路の整備を行います。
併せて、完成自動車の取扱量の増加と自動車運搬船の大型化に対応するため、大黒ふ頭地区の岸壁を水深12mへ増進改良します。
2. 川崎港においては、東扇島地区の物流機能高度化に伴い、慢性化する交通混雑の緩和と、大規模災害時における輸送ルートの多重化を図るため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路の整備を行います。

京浜港湾事務所ホームページURL <https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/keihin/>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会、
神奈川県政記者クラブ、川崎記者クラブ、物流専門紙

問い合わせ先

所属	国土交通省	関東地方整備局	京浜港湾事務所
氏名	副所長	渡部 武士	(わたなべ たけし)
	統括建設管理官	滝口 和美	(たきぐち かずよし)
	第一工務課長	土佐 一也	(とさ かずや)
	保全課長	林田 善久	(はやしだ よしひさ)
TEL	045-226-3709		
FAX	045-226-3724		

事業の概要

国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う川崎港において、コンテナターミナルでの貨物取扱量の増加や日本随一の冷凍冷蔵倉庫群等のロジスティクス機能の充実に伴う将来交通量の需要の増大に対応し、円滑な物流を確保するため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路を整備しています。

令和3年度予定

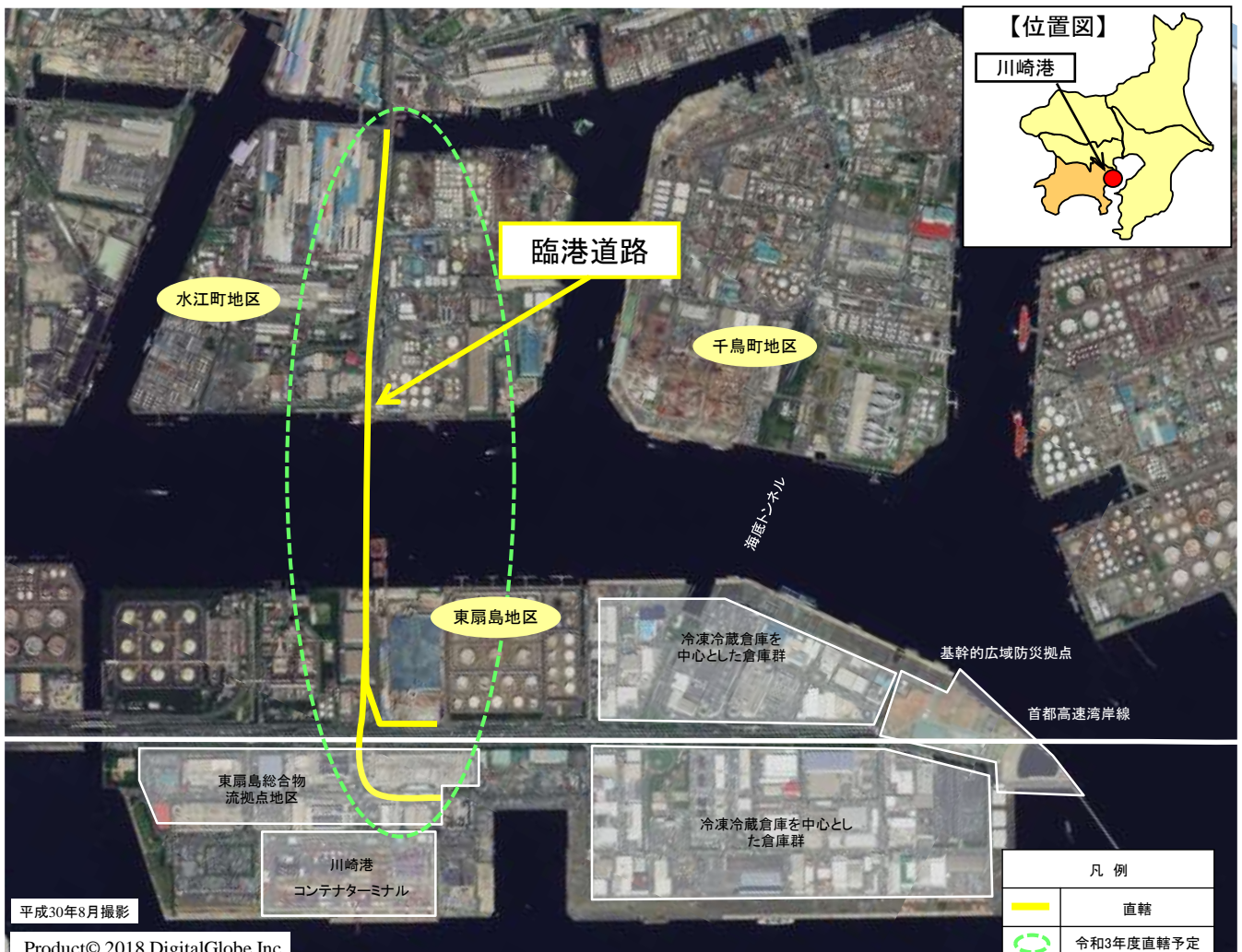
○東扇島地区等の橋梁の上部工、下部工等を実施する予定です。

事業の効果

○川崎港と背後圏のアクセスが向上します。

○基幹的広域防災拠点が立地する東扇島と背後圏を結ぶ緊急物資輸送ルートが新たに拡充され、首都圏の防災機能の強化が図られます。

※基幹的広域防災拠点：災害時において、緊急物資輸送の中継基地や広域支援部隊等の一時集結地・ベースキャンプとして機能する施設。通常時は公園としても機能する。



事業の概要

コンテナ船の大型化や船社間の連携による基幹航路の再編等、海運・港湾を取り巻く情勢が変化する中、基幹航路に就航する大型船の入港や、増加するコンテナ貨物の取扱いに適切に対応し、我が国に寄港する基幹航路の維持・拡大を図るため、横浜港においてコンテナターミナルの再編整備を進めます。

令和3年度予定

○本牧ふ頭地区D5岸壁(水深16m)の本体工、付帯工等および荷さばき地の舗装工等を実施する予定です。

○新本牧地区岸壁(水深18m～)および護岸(防波)の地盤改良工、基礎工、本体工等を実施する予定です。

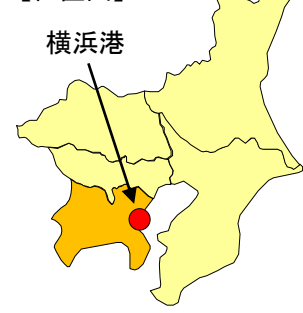
事業の効果

○コンテナ貨物の増加とコンテナ船の大型化に適切に対応することにより、海上輸送コストの削減等が可能となります。

○アライアンス拠点港としての利便性を高め、北米・欧州基幹航路の維持・拡大を図ることにより、物流効率化による我が国産業の国際競争力強化に寄与します。

○耐震岸壁の整備により、震災時においても物流機能が維持されることで、我が国の産業活動と市民生活の安全・安心を確保します。

【位置図】



凡例	
Yellow	直轄
Red	補助
Orange	貸付
Blue dashed	令和3年度直轄予定

事業の概要

日本を代表する完成自動車の輸出拠点である横浜港において、近年の自動車運搬船の大型化や完成自動車の取扱台数の増加に対応するため、大黒ふ頭地区における既存岸壁の老朽化対策にあわせたふ頭再編改良事業の一環として、岸壁(水深12m)を整備しています。

令和3年度予定

○岸壁(水深12m)の地盤改良工、本體工、上部工等および泊地(水深12m)、航路・泊地(水深12m)の増深改良を実施する予定です。

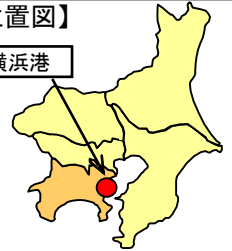
事業の効果

○完成自動車取扱台数の増加および自動車運搬船の大型化に適切に対応することにより、東日本全域からの完成自動車等の海上輸送コストの削減が図られます。これにより、完成自動車や部品等含めた広範な関連産業における国内生産機能の維持・拡大に寄与します。

○横浜ベイブリッジを通過できない超大型客船も受け入れが可能となります。

【位置図】

横浜港



大黒ふ頭地区

ふ頭用地

岸壁(水深12m)

泊地(水深12m)

航路・泊地(水深12m)

凡例

	直轄
	貸付
	令和3年度直轄予定

事業の概要

横浜港におけるコンテナ貨物の増大に伴い、コンテナ荷役の主力である南本牧ふ頭及び本牧ふ頭と背後圏との間、並びに流通機能が集積する大黒ふ頭との間を流動するコンテナ貨物車両が増加しており、交通渋滞が発生しているため、平成21年度から、南本牧ふ頭と本牧ふ頭を結ぶ臨港道路を整備し、物流関連車両の陸上輸送機能の強化を図っています。

また、令和3年度からは、混雑区間の回避による円滑な輸送体系の構築、一般道路の混雑緩和を目的に、本牧ふ頭から山下ふ頭におけるⅡ期区間(延伸)部を追加し整備を進めているところです。

令和3年度予定

○Ⅱ期区間(延伸)部の調査・設計を実施する予定です。

事業の効果

- 新たな臨港道路の整備により、横浜港と背後圏との間、並びに港内を流動する物流関連車両の交通が円滑化し、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。
- 全線完成時には南本牧ふ頭から本牧ふ頭へは6分、大黒ふ頭へは7分の時間短縮することが見込まれます。
- また、南本牧ふ頭へのアクセス道路が複線化されることで港湾物流関連車両の動線が確保される為、事故や災害等の発生時においても円滑なコンテナターミナルの機能が確保されます。

【位置図】

横浜港



凡例

	直轄
	補助
	令和3年度直轄予定

